

「URAを育成・確保するシステムの整備」 事業進捗報告

平成26年4月24日
国立大学法人 筑波大学

当初構想

- ・ 筑波大学の研究企画機能・研究支援体制の充実強化 (p. 1)
- ・ 事業計画時のURA体制 (p. 2)

I : 組織体制整備、トップイニシアティブ(IV)

- ・ 筑波大学URA組織体制 (p. 3)
- ・ URA整備状況 (p. 4)
- ・ 世界的研究拠点整備への対応 (p. 5)
- ・ 学内外への情報配信 (p. 6)

II : 職務環境等整備

- ・ 職務環境等整備の進捗状況 (p.7)

III : 定着・運営の安定化

- ・ URAの職員承継とキャリアパス (p. 8)
- ・ 全学体制での安定的な実践 (p. 9)

まとめ

- ・ 当初構想と現状の対比 (p. 10)

筑波大学の研究企画機能・研究支援体制の 充実強化

研究力の底上げ

- ・研究支援システムの改善
- ・国際的拠点形成: 研究資源の配分、**研究支援者 (URA) の配置**、組織再編

筑波大学第2期中期計画(H22~)



研究活動の高度化、学際化、国際化、ファンディング環境
の変化に対応するURA組織体制整備

「あるべきURA組織」



- ◎ **大学トップに直結した独立組織化**と位置づけ
- ◎ 大学規模に見合った**URA資格者40名体制**を目指した整備

専門性の高い職種として
定着・育成



- ◎ **承継審査を経て職員として雇用し、安定化**
- ◎ 部門の異動、外部出向等を通じた**長期的な人材育成**

重点: 「グローバル化」



- ◎ 重点センターへの派遣・配置
- ◎ 海外機関との連携強化支援

新たな支援組織としてURAの整備、育成を目指す

事業計画時のURA体制

【URA本部】

学長の下、研究担当副学長が本部長を務める「URA本部」が直轄主導

【URA推進ユニット】

既存の関連事務組織から独立、URAの業務開発と業務の定着を図る

【つくばURAアドバイザリボード】

学外有識者から構成されるアドバイザリボードを設置

【事務組織による推進・支援体制】

研究推進部が事業推進を支援

【URAの持続的育成・確保】

10数名のURA資格者を雇用・育成(平成24-26)

【つくばURAs】

学内研究組織等(系、センター)に配置 → 「つくばURAs」

【つくばURAコミュニティ】

「つくばURAコミュニティ」を形成し、URAに関わる知識や経験を共有・蓄積

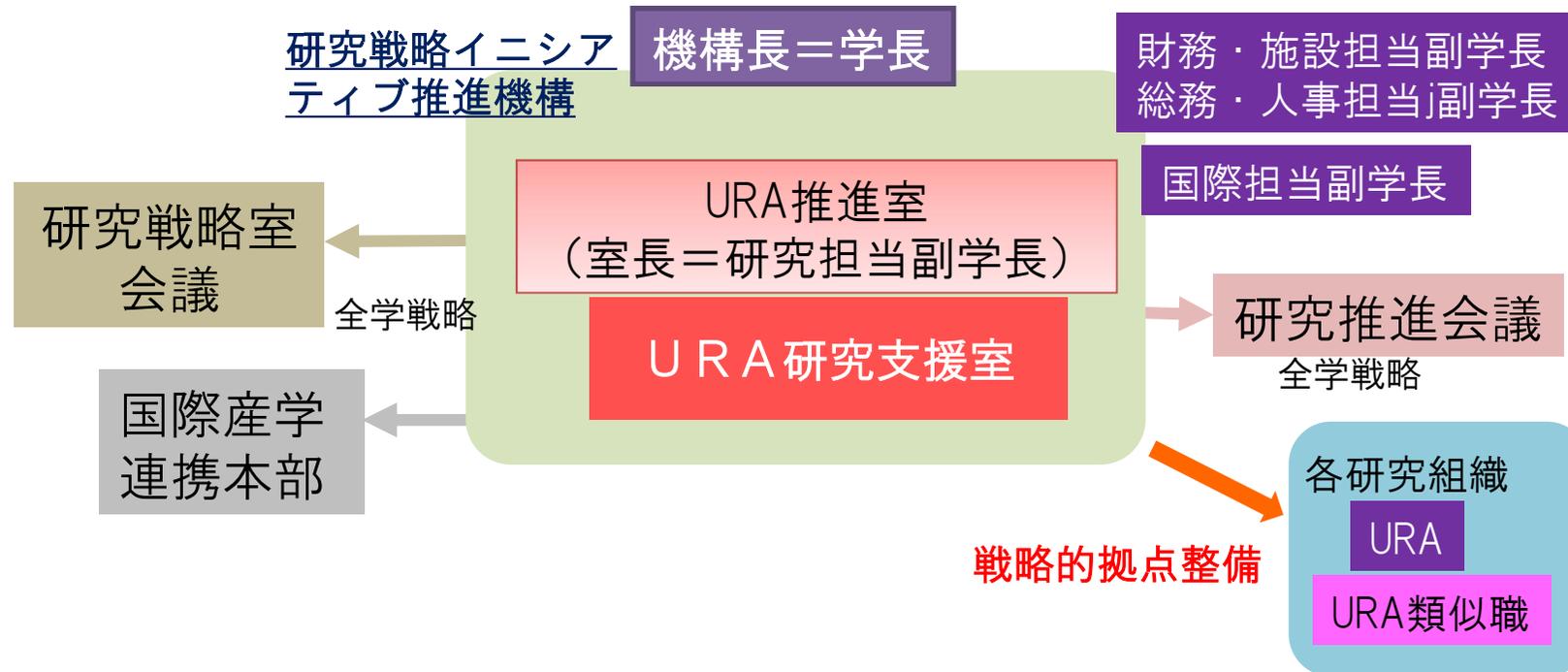
学内教職員組織の広い範囲の協力体制と支援コミュニティを定着

- I「URA組織体制整備」
 - 1. 関連部局との連携
- III「定着・運営の安定化」
 - 1. 学内部局相互連携
- IV「大学トップのイニシアティブ」

筑波大学URA組織体制

大学トップのイニシアティブ

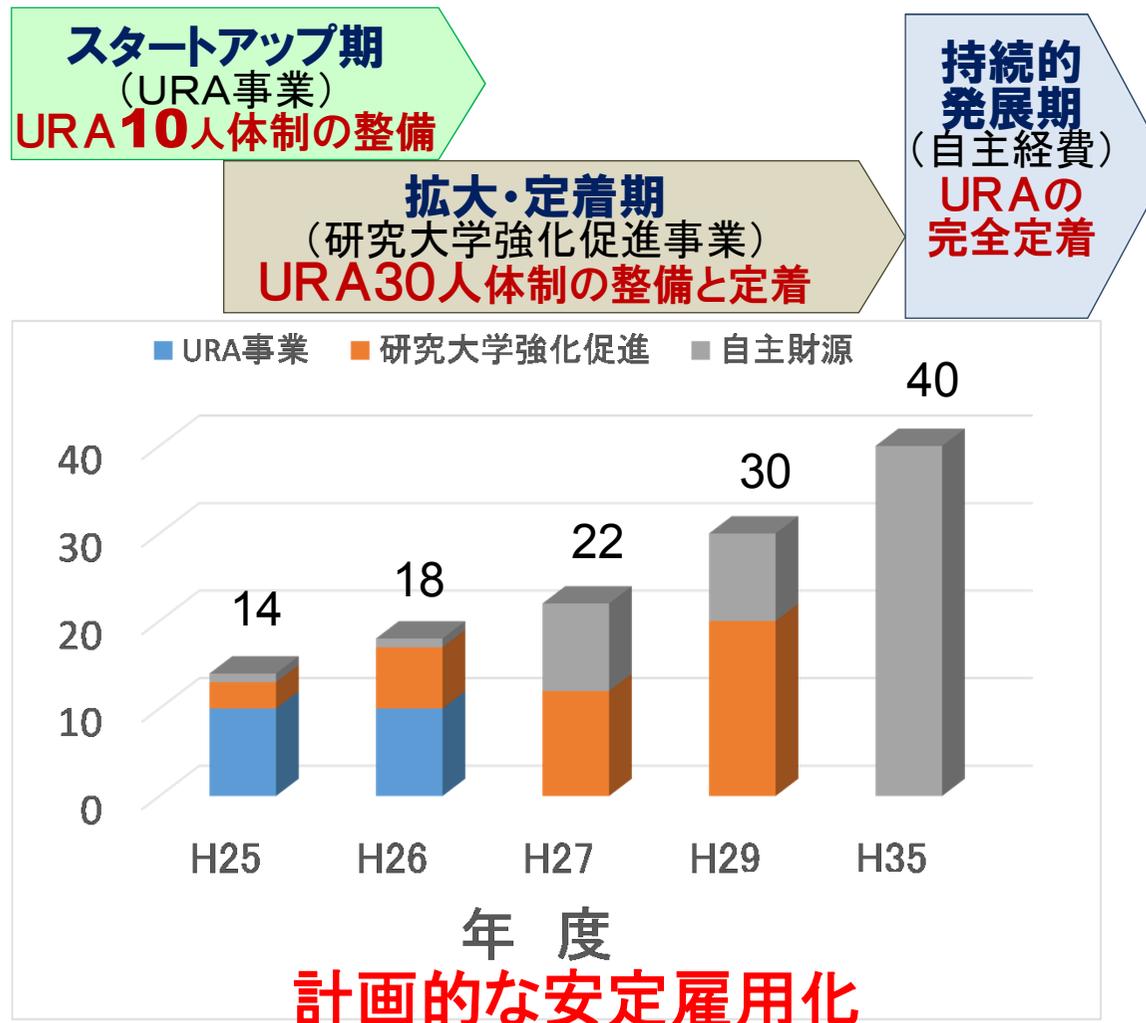
学長直轄で「研究リソース」の重点化



**組織だけでなく、研究力強化支援の重要事業の中心に
URAを位置づけ**

URA整備状況

- 平成35年度に**URA資格者40人体制**
- 「筑波大学URA採用・育成・評価プログラム」に基づき**雇用3年目の評価を経て承継職員に。**
- URAの雇用・育成を**本補助事業終了後も自主経費により継続。**



世界的研究拠点整備への対応

URA研究支援室

国際連携チーム

研究戦略チーム
業務高度化促進チーム
コンプライアンスチーム

チーム連携



海外一流研究者招聘、若手研究者派遣
若手一流研究者採用プログラムの運用
大学トップによる海外研究機関連携活動の密着支援

→ 対象研究者／研究機関の調査分析による交流・提携の戦略的支援

**筑波大学
訪問団支援**

Univ. California Irvine
(H25.10)

UCIrvineの特色分析

プレゼン資料作成

筑波大研究紹介
筑波大グラント紹介



研究者招致・交流(H26.1)

日米URAで支援

海外グラントへの共同提案

リサーチアドミニストレーション協力




- ✓ 交流テーマの拡大
- ✓ 共同研究発展
- ✓ 研究者招聘(H26夏)
- ✓ URA国際協力による研究支援強化
(グラント獲得)
(Research Development活動への展開)

他にも Norich Res. Park (英), Sainsbury Institute (英), 国立台湾大学, Bordeaux (仏), Food Valley (蘭), など

トップイニシアティブによる国際連携を具現化

学内外への情報配信

筑波大学HP:「研究」/「研究支援体制」にバナーをおきURA専用ホームページを充実



URAフォーラムを開催(3回開催)し、学外にも公開



H24.7.27
H25.1.9
H25.12.10

URAシンポジウム・URA研究会での情報発信



H25.11.18-19
@京都

AAASでの発表



H26.2.13-17
@Chicago

Science誌にURAを紹介



Vol. 343, Mar. 28, 2014

研究大学強化促進事業
キックオフシンポジウム



H26.2.24@東京

事業進捗・成果の学内外への積極的配信

- Ⅱ「職務環境等整備」
1. 関係諸規定の整備
 2. 雇用 対計画
 3. 目標 評価
 4. 能力開発

職務環境等整備の進捗状況



【学内規則・業務分掌】

- ・学内規則にURAが果たすべき役割を明記

【雇用状況】

- ・13名を新たに採用(平成25年度末)

【業務達成目標、評価方針策定(URA推進室)】

- ・「筑波大学URA採用・育成・評価プログラム」策定
- ・「URA業務達成目標評価書」策定
- ・面談(平成25年12月)による自己目標決定

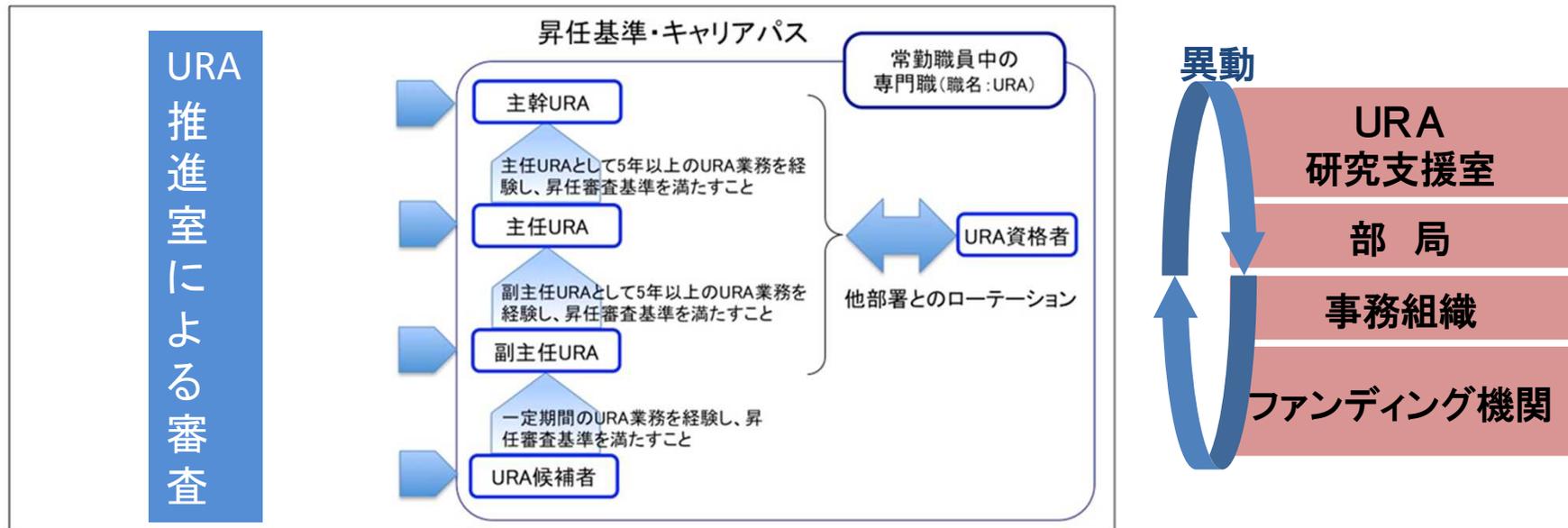
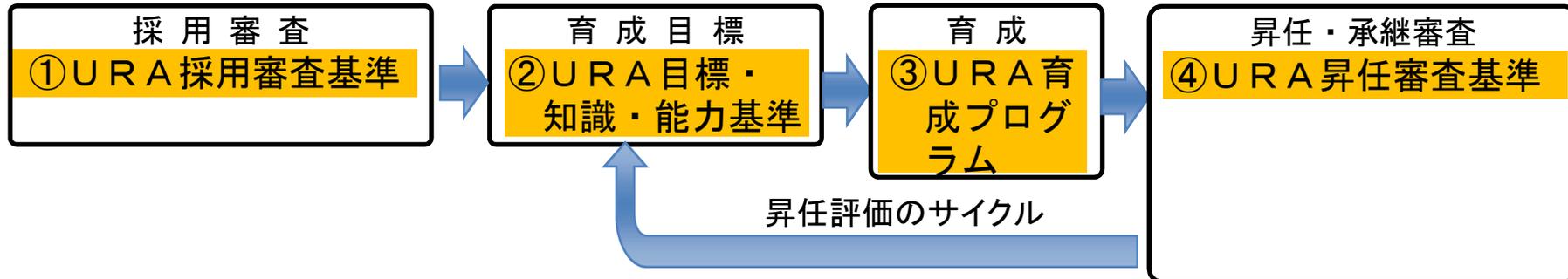
【能力開発プログラム】

- ・「国立大学法人経営ハンドブック」(国立大学財務・経営センター)、「Rcus大学マネジメント人材養成」(筑波大学 大学研究センター 履修証明プログラム)、筑波大学大学院共通科目履修、などの活用
- ・部局配置(OJT:研究企画、産学連携)での学内業務経験

学内インフラ整備、雇用状況、業務達成目標・評価方針策定、能力開発プログラム:いずれも計画を達成

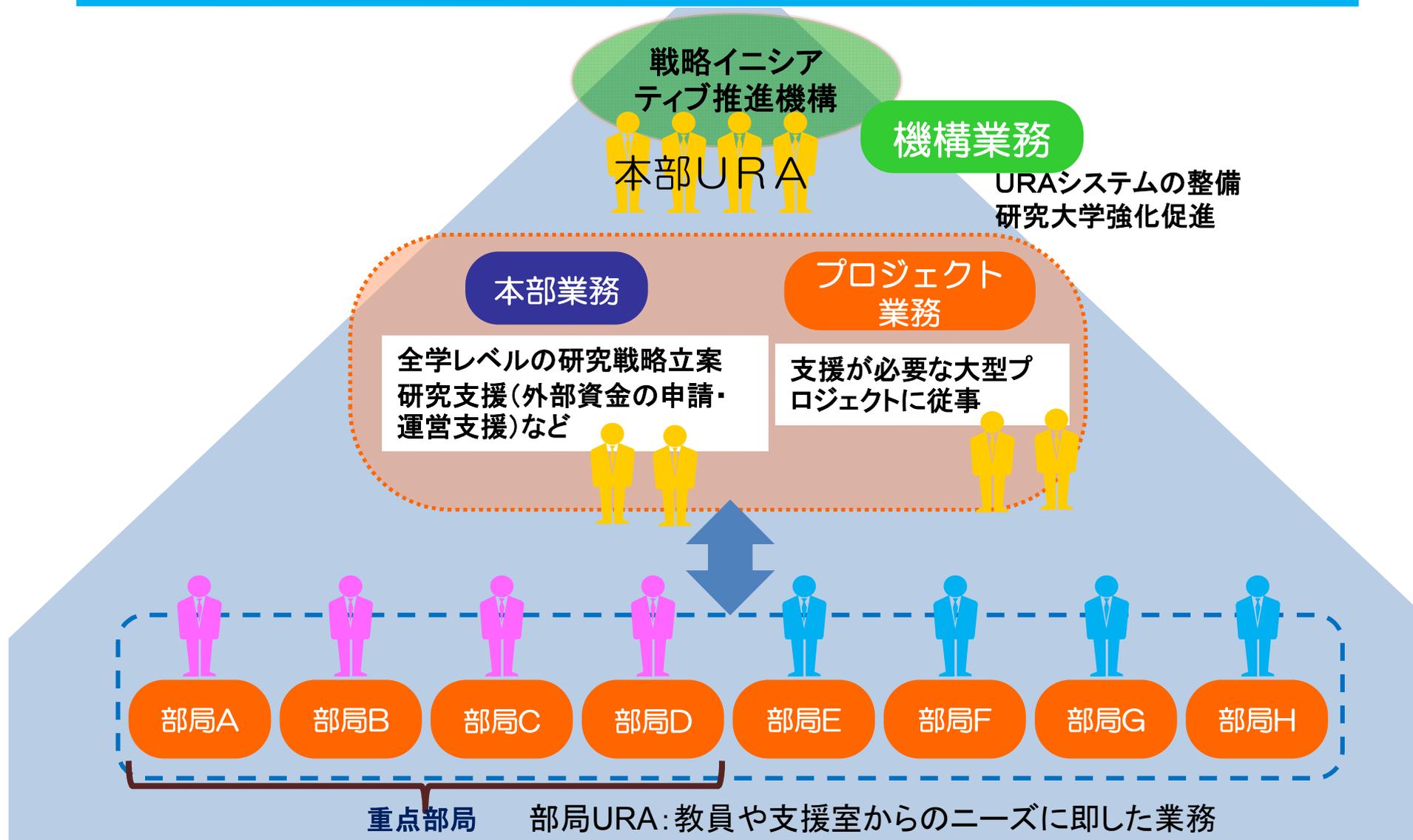
URAの承継職員化とキャリアパス

URA採用・育成・評価/承継のフロー（「筑波大学URA採用・育成・評価プログラム」）



①～③は継続進行中、④承継審査はH26年度実施予定

全学(本部+部局)体制での安定的な実践



部局支援体制の確立

まとめ：当初構想と現状の対比

【URA本部】

《URA推進室》として業務推進(計画通り)

【関連部局責任者のURA本部への参加】

計画通り

【URA推進ユニット】

《URA研究支援室》として業務推進(計画通り)

【つくばURAアドバイザリボード】

取組み中

【事務組織による推進・支援体制】

研究推進部内にURA研究支援室を置き、日常連携。(計画通り)

【URAの持続的育成・確保】

現時点で13名(平成25年度末)(計画通り)+安定雇用(承継職員化予定)

【つくばURAs】

試行を経て、本格実施開始(計画通り)

【つくばURAコミュニティ】

計画通り(更なる充実に向けて進行中)

計画通り進捗 → 更なる充実に向けて進行中